

## 平成28年度 兵庫県立湊川高等学校 学校評価表

<b>学校教育目標</b>	(1)綱領「誠実・協同・自由・自治」の精神を踏まえ、勤労を尊び学ぶ意欲を大切に、自己教育力の養成に努める。 (2)生徒一人一人の個性を尊重し、しなやかにたくましく生きる力を育む。 (3)地域・社会に貢献できる人材づくりを通じて、地域に開かれた魅力ある学校づくりに努める。	<b>重点目標</b>	(1)人間としての不可欠な倫理観の育成と人権尊重の精神に基づく教育の充実を図る。 (2)自ら学ぶ意欲の育成と基礎的・基本的な学力の定着を図る。 (3)定時制高校としての特色を生かした地域に開かれた魅力ある学校づくりを進める。 (4)震災の教訓を生かす「兵庫の防災教育」を推進する。 (5)国際理解教育を推進する。 (6)教職員の研修の充実と実践的指導力の向上を図る。
---------------	---	-------------	--

\*)評価の数値は、実践目標の達成状況を全教員により5段階で評価した平均点である。(5:よくできた 4:できた 3:どちらともいえない 2:あまりできなかった 1:できなかった)

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	成果と課題	評価	評価	評価
					H26	H27	H28
I 学校経営	1 開かれた学校づくり	①家庭や地域への情報発信	・ HPや湊川新聞を通して、学校行事等の広報や結果などの情報を公表するとともに、定期的に更新する。	・「湊川新聞」(年3回発行)通じて情報発信の充実を図った。 ・ホームページの更新が今年度は上手いかなかった。来年度は、定期的に更新する。	3.4	3.0	3.5
		②学校評議員制度の学校運営・改善への活用	・ 学校評議員との意見交換の場を設け、学校運営等の改善に役立てる。	・オープンハイスクールの様子など学校行事にも、見学して頂き貴重な意見を賜った。来年度に向けて、この意見を参考にして生かしていきたい。	3.3	2.8	3.4
	2 生徒指導	①生徒指導方針の明確化とその評価による指導体制の推進	・ 生徒指導方針を職員、生徒に示し、定期的にその方針の達成状況を確認しながら、生徒指導を推進する。	・ 事あるごとに指導方針を確認・徹底することで、指導がブレないようにすることで、生徒への指導を徹底することができた。	3.3	3.3	3.3
			・ 高校生心のサポートシステム「いじめ・暴力行為減少・克服に向けた実践・研究」指定校として意欲的に研究・実践を行う。	・平成22年度から指定され「高校生心のサポートシステム(不登校生徒支援実践・研究)」に本年度も取組んだ。学期ごとに生徒アンケートを行い、職員研修資料として利用した。	3.3	3.0	2.9
		②生徒の内面理解を図る指導方法の工夫	・ いじめに関するアンケートを実施し、生徒の実態等を把握する。	・各学期ごとにアンケートを行うことで、ピンポイントで生徒の状況が把握でき、早期発見・早期対応に役立てることが出来た。	3.6	3.4	3.6
			・ 人命尊重の精神を柱とする安全教育を徹底し、事故や災害への危機管理体制を整備する。	・講演会や全校集会を通して、安全で安心できる学校づくりや人間関係作りを構築した。	3.4	3.4	3.3

I 学校経営	3 進路指導	①進路指導体制の充実	・就職や進学を見据えた進路指導計画と共に、「進路の手引き」等を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施する。	・生徒一人一人の適性に応じて丁寧な指導を行い、就職・進学ともに進路実績をあげることが出来た。	3.5	3.5	3.8
		②職業観・勤労観の育成	・外部講師等による進路講演会等を開催し、生徒の職業観・勤労観を育成する。	・進路講話やふれあい育児体験・職業体験講座などを通して、生徒の職業・就職への意識を高めることが出来た。	3.5	3.2	3.5
	4 教職員の資質向上	①実践的指導力の向上	・公開授業や授業検討会ができる体制を整え、大学などの出前授業を実施し指導力向上につとめる。	・日々の授業では、手作りプリント、大型モニターを使用するなど工夫を重ねた。	3.7	3.3	3.3
		②計画性をもった研修の実施	・各部・各委員会の協働により、学校の諸課題に関する校内研修を計画的に立案する。	・研修委員会において年間計画を立てることで、一年間を通して研修を研鑽することが出来た。 ・生徒指導に関する研修をさらに増やしていきたい。	3.7	3.3	3.6
	5 危機管理体制の整備	①実践的な研修・訓練の実施	・危機管理マニュアルの点検及び改善を行う。	・マニュアルの見直し、点検を行った。 ・防災訓練では震災による停電状態を想定した訓練を行った。	3.1	3.0	3.1
II 教育課程	1 自ら学び自ら考える力の育成	①体験的・問題解決的な学習の展開	・各教科、高校生ふるさと貢献活動事業等において体験的・問題解決的な学習を推進し、特別活動との連携を図る。	・ふるさと貢献事業のボランティア活動を通して、地域に馴染み、絆が強まった。来年度もふるさと貢献事業を継続して、更に充実していく。	3.3	3.2	3.1
		②生涯教育の視点に立った実践能力の育成	・生徒の興味・関心に基づき、まとめた内容を発表するなどの言語活動を取り入れた学習指導を実践する。	・「校内生活体験発表会」において自らの体験をまとめ、発表するといった実践能力の向上を目指した。また、講演会やボランティア活動などの後で感想や意見などをまとめる指導を行った。	2.9	2.5	2.8
	2 基礎・基本の定着	①学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	・日々の授業を大切に、学習に取り組む態度や姿勢を養うための指導方法等を工夫・実践する。	・授業用に作成したプリントや各教室のモニターを使って授業の工夫をした。	3.3	3.1	3.1
		②評価規準の設定	・より計画的な指導を推進するために、シラバスや年間指導計画の整備を行う。	・生徒に何をどう評価するかということをあらかじめ知らせることで、励みになった。	3.3	2.9	3.1

II 教育課程	3 個に応じた学習指導の徹底	①評価方法の創意工夫	・各教科の評価方法に対するの共通理解を図る。	・今後も評価方法について検討していく。	3.1	3.0	2.9
		②指導形態の工夫	・習熟度別授業や少人数指導の深化を図るとともに、チームティーチングによる指導などの工夫を行う。	・チームティーチングなど複数の教師を配置することで、落ち着いた授業が出来るよう配慮をした。来年度においても継続していく。	3.7	3.0	3.4
III 課題教育	1 健康教育と安全教育の充実	①生涯にわたる健康の基礎を培う指導の工夫	・「ほけんだより」を発行するなど保健室の機能を生かし、適切な健康管理・保健指導を行う。	・ほけんだよりを定期的に発行することで、様々な情報などを生徒・保護者に発信した。 ・キャンパスカウンセラーと連絡を密にして生徒の保健指導にも活用し、昨年度以上に充実した。	3.6	3.5	3.4
		②給食を通じた健康管理	・給食を通して、望ましい食の知識を身につけ、自己の健康管理に生かす指導の工夫を行う。	・献立表を配布することで生徒の食の意識を高めた。また、給食時に声かけをし食育を通して健康管理に対する意識向上を図った。	3.5	3.5	3.7
	2 人権教育	①人権教育推進体制への取組	・人権教育推進委員会を中心に、映画会・講演会等を計画し、人権を尊重し合う仲間づくりを推進する。	・年2回の人権映画鑑賞と講演会を行い、実体験を聴くことで人権の尊重や命を大切に思う気持ちについて意識を深めた。	3.6	3.4	3.4
	3 国際理解教育	①異文化理解の深化	・朝鮮語、英語、総合的な学習の時間等において、異文化理解を深める。	・外国語として英語だけでなく朝鮮語も学習することで、多様な異文化理解を推進した。	3.4	3.0	3.2
	4 学校の個性化	①体験活動の推進	・体験的な教育活動により、生徒の発想や主体性を生かし、生徒の意欲を引き出す教育活動を展開する。	・クリーン作戦の地域清掃を始め、地藏盆ボランティア活動・おもつき会など積極的に取り組み生徒の自己有用感を育んだ。	2.8	2.8	3.1
			・兵庫型「体験教育」の一環として高校生ふるさと貢献活動事業を活性化させ、地域に開かれた学校づくりを進める。	・地域交流学習会や地域オープン講座(ユニーク講座:ふれあい書道)等積極的に企画運営し地域に開かれた学校づくりを行った。	3.2	3.0	3.1